

佐賀市総合計画審議会 暮らし・環境分科会 意見・質問一覧表

No	ページ	基本政策	施策	区分	提案者	内容	趣旨
1	13 17 33	序論・基本構想	人口ビジョン	質問	北原委員	<p>P13 人口ビジョンの趣旨： 『「少子化の課題」と「人口減少による課題」は切り分けて考える必要がある』</p> <p>「少子化の課題」が、市の最上位計画の位置付けである総合計画の中で記載が全くないのはなぜか。維持するため必要な出生率3.9を試算されているのに「実現したい将来」に位置付けられないのはなぜか。</p>	<p>「実現したい将来」に今からどうやっていくのかがバックキャストの視点。3.9が実現したい将来ではないなら、フォアキャストでしかみていないのではないか。</p> <p>人口減少の中で「発想の転換」はやっていかないとはいけませんが、現状からの話でありバックキャストの思考にかなっていないのではないか。</p>
2	7	序論・基本構想	序論	意見	上赤委員	<p>『⑩生物多様性の保全 を追加する』</p> <p>環境省は「生物多様性のための30by30アライアンス」を「2030年目標」として掲げ、「自然共生サイト」を立ち上げている。自治体、企業、NPO団体等に参加を呼び掛けており、令和6年3月現在で参加団体は783あって、佐賀市も登録している（九州・沖縄の登録自治体は8団体）。佐賀市は「自然共生サイト」の登録も目指していると聞いており、佐賀市の環境行政に直結する取り組みである。</p>	<p>国連は、地球規模で取り組むべき課題として1992年に「気候変動枠組み条約」（地球温暖化対策）と「生物多様性条約」をスタートさせた。日本も条約に加盟し、1995年（京都；気候変動枠組み条約）、2010年（名古屋；生物多様性条約）の2回の国際会議を開催している。それから30年以上経過したが、いまなお問題解決にはほど遠く、課題山積である。現在は、SDGs、温暖化対策、生物多様性保全のそれぞれで「2030年目標」にかけて国家的なプロジェクトが進行中であり、佐賀市の総合計画の柱の一つとしても、2大環境問題と認識されている「生物多様性の保全」を明記したほうが良いと思われる。なお、生物多様性の保全はSDGsの土台を成すと考えられていて、佐賀市民にとっても重要な課題である。</p>
3	45	6生活・環境		意見	上赤委員	<p>リード文： 『…今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれがライフスタイルの見直しや脱炭素、自然保護など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していけるように取り組んでいきます。』</p> <p>自然保護→自然環境の保全 に修正</p>	<p>「自然保護」という語句は、今日的な用語としては馴染まなくなっている。</p>
4	45	6生活・環境	脱炭素が当たり前の社会の実現	意見	北原委員	<p>「ゼロカーボンシティさかし」で2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを宣言されている。数値目標ゼロ（KGI）を最上位計画に記載しないと、関連する個別計画に記載しても市民にも認知されないのではないか。</p>	<p>総合計画の中でKGIを示し、総合戦略の中でKPIを示すことが必要ではないか。総合計画が、自治基本条例と相互補完しているのなら総合計画に数値目標（KGI）が必要ではないか。数値目標があり、数値を達成するためにバックキャストの視点で何をしないといけないのかを考えないといけないと思います。</p> <p>また、2次計画の達成状況や評価の資料や説明がないので3次案に活かしてあるかわからない。</p>
5	45	6生活・環境	豊かな自然と心地よい暮らしの調和	意見	上赤委員	<p>2040年に目指す市民等の姿： 『3 市民は、豊かな自然を守るため、自らできることに取り組み、自然や動物と共生するまちで快適に暮らしている。』</p> <p>「自然や動物」を「自然や生物」または「自然や動植物」と修正 ※「意見整理表」において整理</p>	

No	ページ	基本政策	施策	区分	提案者	内容	趣旨
6	45	6 生活・環境	豊かな自然 と心地よいく らしの調和	意見	上赤委員	<p>2040年に目指す市民等の姿「3 主なポイント」: 『生物多様性や動植物の保全・共生に関する理解が浸透すること』</p> <p>1つ目の項目の修正案 「佐賀市の多様な自然や生態系の価値を理解すること」 ※「意見整理表」において整理</p>	まずは、佐賀市民が佐賀市の自然を知ることが最初に挙げる。
7	45	6 生活・環境	豊かな自然 と心地よいく らしの調和	意見	上赤委員	<p>2040年に目指す市民等の姿「3 主なポイント」: 『市民と協力して外来生物への対応を強化すること』</p> <p>2つ目の項目の修正案 「生物多様性を高めるために自然環境の保全や再生が行われていること」 ※「意見整理表」において整理</p>	次に、自然環境を保全・維持するための取り組みが必要であることを述べる。 外来生物に関しては46ページの3③にほぼ同じ文章があるので、それだけで良いと考える。
8	46	6 生活・環境	豊かな自然 と心地よいく らしの調和	意見	上赤委員	<p>『① 環境学習の機会を市民に提供するなど、生物多様性に関する理解を促進し、 佐賀市が誇る自然環境の保全や回復を行います。』</p> <p>①で「保全や回復」を「保全や再生」に修正</p>	国家的な取り組みとして、生物多様性基本法、自然再生基本法があるので、用語としては回復より「再生」の方がより良いと考えられる。

No	ページ	基本政策	施策	区分	提案者	内容	趣旨
9	47 48	7コミュニティ		意見	高田委員	<p>地域の困り事が可視化される場、リアルとオンラインをつなぐ場、困っている人と助けられる人がつながるインフラが必要であると考えており、すでに記載のあることに同意しています。</p> <p>同時にこのコミュニティが常時だけでなく有事にも機能する状態にしていくこと、また、定住している人だけではない多様な暮らし方が認められコミュニティに関わり続けることのできる状態を作ることが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生の声が集まる現場が、一人一人の市民のニーズを可視化・データ化する拠点として機能させることで、街全体のwell-beingにつながると思います。 ・関係人口というカタマリでみると想像が付きにくいですが、市民一人一人の立場になれば、多様な暮らし方がコミュニティに参加することにより、佐賀市で何か起きた時でも、佐賀市内に住む人が、佐賀市外に家族や拠点を持つ人に助けられる、という可能性もあります。個々のつながりが自然と生まれ継続していくための環境づくりを、スーパーアプリをはじめとしたデジタルと、リアルのつながり拠点（公民館や集合住宅など）をいかに作っていくことが大切だと思います。
10	49 50	8防災・安全	総合的な防災・危機管理対策の充実	意見	高田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルの活用により何がどこにあるのかをすぐに可視化できる状態にしておくことによって、本当に求めている人たちのところに必要な物資を届けることができるようになる助けも同様に行うことができると思います。 ・災害対応においては、市内だけでなく、市街、県外など災害を受けた時に同じような被害を受ける可能性の低い自治体との広域的な連携が必要になると考えます。 	

No	ページ	基本政策	施策	区分	提案者	内容	趣旨
11	32	序論・基本構想	土地利用	意見	高田委員	<p>④有明海沿岸ゾーン： 『九州佐賀国際空港のポテンシャルを活かして、国際交流の起点となるよう促す。』</p> <p>この記事について、「国際交流」は具体的にどのようなことを促していきたいのか明確にした方が良いと思います。逆に、福岡空港の代替としての役割や、九州における災害時の広域的な連携の拠点ともなりうる点に触れた方が良いのでは。</p>	九州における一つの重要なゲートウェイとしての役割を周知することは重要だと思いますが、佐賀国際空港の現状の役割を考えると「交流」がどれだけ生まれうるのかが見えにくいので、飛躍的な感じがするため。
12	52	9都市・交通	魅力ある居住環境の創出	意見	大江委員	<p>『① 生活利便性の高い地域への居住誘導と既存集落を維持する開発許可制度の適切な運用を図ります。』</p> <p>①について書かれていることは、対象地域に対してのことでしょうか（立地適正化計画に書かれている市街化区域、あるいは都市計画区域に関することでしょうか）。①の文章だけ読むと、佐賀市全域に適用されるように受け取られるかもしれませんが、対象区域に関することだとわかるように、あるいは対象区域とそれ以外の区域それぞれについて方向性が示されるとよろしいかと思いました。</p>	<p>どの分野もそうですが、特に観光や防災、農林水産、景観等の分野は地域住民が主役である、ということは佐賀市全域に言えることです。その中で今回の総合計画案で謳われている、一人一人が担うそれらの役割は、過疎地域はいっそう一人一人の分量は増していきます。</p> <p>私自身が、北部山間地に居住するので、そのことに目が行くのですが、今回の総合計画案の全体を通して、過疎地域の住民も総合計画担い手であり、過疎地域をどのように維持するのか、という視点を忘れずにしていただきたいと思っています。</p>
13	52	9都市・交通	人と環境に配慮した道路ネットワーク整備	質問	北原委員	<p>『① 道路ネットワークが充実することで、移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与します。』</p> <p>p45では、市民活動や事業活動に必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで賄われていると記載がある。p45のありがたい姿とあっているか。 寄与ではなく、CO2排出量ゼロを目指すなどの表現ではないでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組み項目（P計画）の中で、寄与すること（C評価・分析）の記載はいらぬのではないのでしょうか。 ・p45がありがたい姿であれば、ゼロではないでしょうか。環境面では交通GXの記載が必要ではないかと思えます。